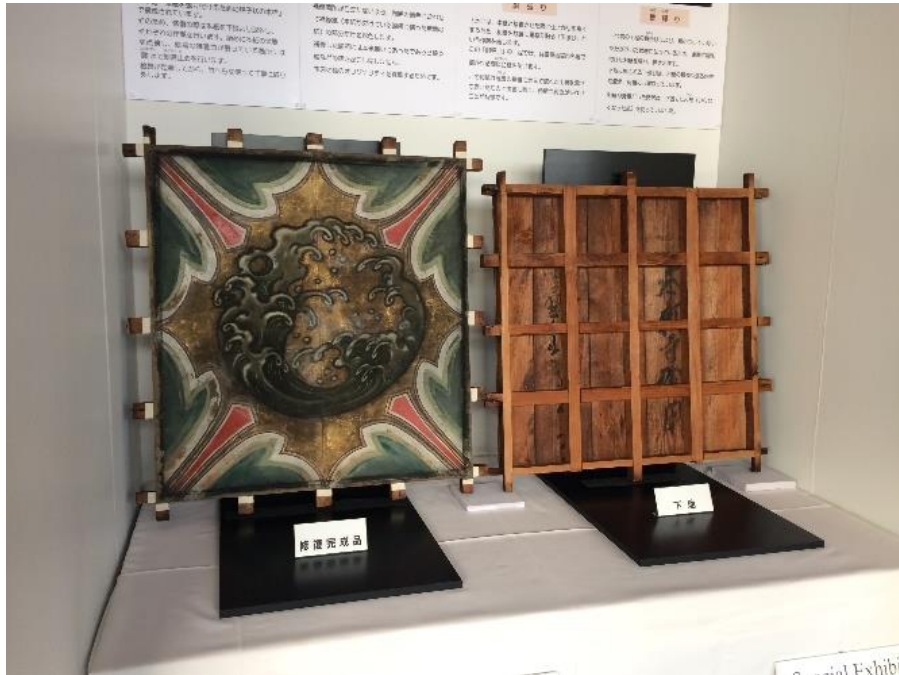


「国宝 阿弥陀堂天井画 特別展示」を行いました

2017(平成 29)年度 全国門徒総追悼法要(秋の法要)初日の 11 月 22 日(水)から 26 日(日)までの 5 日間、阿弥陀堂天井画の特別展示を行い、5000 人以上の方々にお越しいただきました。

ご好評をいただきましたため、次回の特別展示について企画中です。

詳細が決定次第お知らせいたします。皆さまのご参拝をお待ちしております！



▲修復後の天井画(波のデザイン)と下地(木枠)を展示



▲修復工程をパンフレットにして配布
内容は次ページにてご覧いただけます



▲渡り廊下に展示ブースを設置

阿 弥 陀 堂 内 陣 天 井 画

修 復 工 程

かいそう

解装

天井画は「本紙：絵の描かれた紙」と「下地：本紙を張り付けるための格子状の木枠」で構成されています。そのため、修復の際は本紙を下地より取外し、それぞれに作業を行います。



本紙作業工程

I. 本紙汚れ除去

本紙に水分を与え、浮いた汚れを吸水性の高い紙に移し取ります。



本紙汚れ除去

II. 旧裏打ち紙除去

古くなった裏打ち紙（本紙裏面に張られた紙）を全て取り除きます。



旧裏打ち紙除去

III. 本紙補修

本紙が欠けている部分は、同質の補修紙をあてて、つくろいます。



本紙補修

IV. 裏打ち

本紙の裏面に和紙を直接張ります。最初に行う裏打ちを肌裏打ち、それ以降は増（まし）裏打ちと呼びます。更に本紙の亀裂部分には、補強のために裏面から細く切った和紙を張ります。



肌裏打ち

V. 絵具剥落止め

絵具の接着力が低下している箇所に膠水（にかわすい：古くから使われている接着剤）を使って剥落を防ぎます（V-1）。その後おもりで押さえて定着させます（V-2）。作業工程の中で何度か繰り返し行います。



剥落止め



剥落止め

VI. 補彩

補修箇所が目立たないように、周囲の地色に合わせて補修紙の部分だけを彩色します。



補彩

下地作業工程

1. 清掃

下地の汚れを取り除きます（1-1）。その後、下地の骨格を止めている釘に錆止めを施します（1-2）。



清掃

2. 骨縛り

下地に強靱な和紙を張ります。島根県石見地方の良質な楮（こうぞ）を使った石州紙を使います。



釘錆止め

3. 胴張り

全面に糊を付けた和紙を骨縛りをした上から張ります。兵庫県西宮市名塩で漉かれる間似合紙（まにあいし）を使います。土粉と雁皮（がんび）を混ぜて漉いたもので虫害に強く、伸縮や変色が少ない和紙です。



骨縛り

4. 蓑掛け

湿度調節の役割を果たす工程で、骨格の外周のみに糊を付けて和紙を蓑状に張り重ねます。



胴張り

5. 蓑縛り

蓑掛けで糊のついていない部分が浮いた状態になっているため、全面に糊を付けた和紙を張り、押さえます。



蓑掛け

6. 浮掛け

薄手の和紙の四辺だけに糊を付けて張り、上張りの張力による反りやねじれを防ぎます。本紙を安定させ、湿度変化による伸縮を防ぐ効果があります。



蓑縛り



浮掛け

本紙上張り

最後に本紙と下地を、ムラなく完全に接着させて、修復完成です。

